

LOTE センター (LOTE Centre)

訪問日：3月10日（水）、14日（月）

1. LOTE センターの概要

クイーンズランド州では、LOTE (Language Other Than English) 政策として、日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、インドネシア語、中国語、韓国語の7言語を推奨しているが、その中でも日本語の学習者数は最も多い。LOTE センター併設の図書館には、日本語教科書、テープ、ビデオ、書道道具や浴衣、料理のレプリカなどが取り揃えられており、日本語教師に貸し出しできる仕組みになっている。もちろん他の言語の教材も揃っているが、日本語の教材が最も多いようだった。去年の見学同様、今回も、国際交流基金から派遣されている北井佐枝子さんのお話をうかがうことができた。



2. アドバイザーの必要性



北井さんは、現地の日本語アドバイザーとして、教師研修の実施とネットワークの促進を行っている。ちょうど訪問一日目の翌日（3月11日）に、初任者研修を行うという話だった。（LOTE 教師70名中、37名が日本語教師。）しかし、北井さんはクイーンズランドに日本人アドバイザーは本当に必要なかどうか疑問を感じているという。LOTE センター 자체が縮小している現在、カリキュラムに沿って日本語教育を行うという体系づくりが難しいのだそうだ。また、現地採用の日本人と基金派遣の日本人がうまくいかないことも多く、人間関係の構築が難しいという面もある。

3. LOTE 教師が利用できるウェブサイト

北井さんは、LOTE 教師の情報源として、二種類のウェブサイトを立ち上げている。

◇日本語ネット (<http://www.learningplace.com.au/en/loten/nihongo>)

LOTE 教師のインフォメーションサイト。オープンしてから利用者は500名くらい。教師同士の交流もある。利用者には、メールで新着情報を連絡している。

◇日本語ブラックボード (<http://education.qld.gov.au/learningplace/>)

教師が作成した教材を公開しており、アクセスすれば利用することができる。現在の利用者は70名くらい。ログインにIDとパスワードが必要。著作権があるため、公の教材は載せられないが、教材の内容に不平を言う人もいるそうだ。

4. ILT (Intercultural Language Teaching) 教材

現在「日本文化を教える」ために、日本語教師が独自で教材作成をしている。教材は自分たちで作ろうという方針だそうだ。今回、その中の「結婚」というテーマの教材を見せていただいた。右のようなオリジナルテキストには、教材の中身と、授業での取り扱い方（指導案）が記載されている。ファイルボックスの中には、祝儀袋、祝電、写真（ラミネート加工済）、結婚に関する日本の雑誌などが入っている。写真は、神前結婚や教会結婚、披露宴の様子などが分かる。指導案を見ると、「どんな結婚式でしたか。」「どんな服を着ていましたか。」「結婚式の後に披露宴がありましたか。」など、問いかけるものがほとんどで、その背景などの説明があまりないように感じた。また「これが一般的な日本人の結婚式です。」と教えることに、やや危険を感じた。最近では「地味婚」といって、お金をかけずに小規模な披露宴程度で終わらせる若いカップルも多いと聞く。この「結婚式」というテーマが、果たして「日本文化」の一つとして教えられてもいいのだろうか。オーストラリアの結婚式との違いを意識させるような問いかけも必要だと思う。



5. MLTAQ

クイーンズランドでは、LOTEのような言語教育政策が盛んであるが、中でも LOTE 教師たちが集まる MLTAQ (The Modern Language Teachers' Association of Queensland) について教えていただいた。語学教育学会のようなものらしいが、ホームページによると「コミュニケーションおよびLOTE 教師間の協力を促進し、語学教育、教育方法論および言語学の分野での研究、批判、研究および指示を促進することを目標とした団体のようである。

◇MLTAQ (<http://www.mltaq.asn.au/>)

6. 報告者の感想

日本語以外にも、さまざまな言語の教材が揃っていて、日本語教師が他の言語について学びたいときにも参考になるのではないかと思った。日本では、言語教育といえば英語ばかりを思い浮かべるが、オーストラリアでは、母国語以外の言語教育を盛んに行っている。移民の受け入れを積極的に行っている状況とも関係があるのだろう。



報告者：原田麻美